

GX接合の理解深める

異形管工業会 6年ぶり配管講習

日本ダクタイル異形管工業会は、6年ぶりとなる会員向けの配管講習会を8月28日に栗本鐵工所加賀屋工場(大阪市)で、同月30日にクボタ京葉工場(船橋市)でそれぞれ



耐震継手構造を見て学ぶ

開催した。両会場合わせて40人以上の参加者がGX形継手管の接合を見学・体験し、日々生産している製品の施工について理解を深めた。

配管講習会は協会の広報委員会が主催しているもの。耐震継手の仕組みや接合方法の差異に関する説明の後、接合の実演見学・実習を行った。工場での開催とあり、希望者は直管の製造工程も見学した。

GX形継手の耐震性能を十分に発揮させるためには、切管と直管受口との接合に用いる「P-L

ink」、同じく異形管受口との接合に用いる「G-Link」、一体化長さに応じて直管受口に入れる「ライナ」といった接合部品を適切に使用しなくてはならない。講習ではこれら一通りの接合方法を取り扱った。参加者は離脱防止機能が働く仕組みを学び、それぞれの部品の必要性を再確認していた。